



虫貝書難るる儘也

貴下より取来の病

三葉の草の葉の中

俄に冷寒を感ず

如くは也

相て去る夏迄は二葉の草に

虫娘掃の目道に

車中何かと思ふ

戴き上りて

お成り山厚情の程

子守歌に

一同鑑念の事

所々を去りて

早迷の途に



一 同鑑念の浦に立止
所々も去月七日の如き
早迷の趨に程なく
其の交つての任所をわき
少古よりあるる金徳を
よりせられ承知する
は病を治すの如き事
了もあつたといふ
あふ作の却て念書
接 其者の事
何と云ふに
ち角の如き事
の程

元長勇次郎

小島文八様



午込又市ヶ谷加賀所ニセ也
 多岐大路氏子
 小島文八様





藏

三行

中
知
西
長
十
元
良
勇
以
印

